日本医学会分科会活動報告

学会名(№140)日本臨床神経生理学会

代表者名：理事長　今井 富裕

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

当学会は、電磁気生理学的手法、心理物理学的手法、機能画像などを駆使することで、脳脊髄や神経の機能異常を解明し、未だ難治疾患が多いこの分野の診断、治療(リハビリテーションを含む)や予防法の確立を目指すことで、医学会の発展に貢献したいと考えている。そのための教育・研修現場の提供、認定制度として、具体的には以下の活動を行っている。

・主催セミナー（脳波セミナー・アドバンスコース、神経筋診断セミナー、術中脳脊髄モニタリングセミナー、経頭蓋磁気刺激の安全使用のためのハンズオンセミナー）を通じて検査・診断技術的の向上を図る

・地域別のオンサイトでの関連講習会（臨床神経生理技術講習会（東京）/臨床筋電図・電気診断学入門講習会（東京）/脳波・筋電図セミナー（京都）/北東北・道南神経電気診断技術セミナー/南東北臨床神経生理セミナー/臨床神経生理研究会（九州））への人材および資金面での支援による地域格差の解消も含めた教育・研修の実施

・E ラーニングコンテンツの提供

・認定制度（専門医、専門技術師資格/指導医・認定施設/術中脳脊髄モニタリング認定医・認定技術師資格）の充実による、医療技術、ノウハウを持つ人材の確保および研修体制の構築

・学会誌「臨床神経生理学」（6 回/年）において研修成果の発表・研鑽の場の提供

・学術大会、技術講習会の開催

・臨床神経生理学分野への貢献、研究の進展に対するアワード（学会賞、奨励賞、Jun Kimura Award、Hiroshi Shibasaki Award）の設定と AI 導入に向けた準備やビッグデータ管理に関する機関の確立。

b.当該領域における国際的な役割

本学会の名称ともなっている「臨床神経生理学」は、スウェーデンを始めとする北欧諸国やイタリアなど一部のヨーロッパの国々では基本領域のひとつとして位置づけられ、米国や英国では Neurology の subspecialty にもなっている。これらのことからも、当該分野は医学分野での独立性とその領域の必要性が国際的に広く認められ、診断・治療に必要な高度で洗練された知識や技術・技能が要求される専門性の高い領域であると認識されている。本学会は、国際臨床神経生理学連合（IFCN）の構成員で、財政的人的に大きな貢献をし、アジアオセアニア地区の Chapter 代表も務め、IFCN 主催の国際学会も今まで 2 回開催している。

c.活動からもたらされる社会的な意義

認定制度、セミナー・研修等を通じて、検査、診療技術の向上を目指し、研究成果や技術技能を、書籍・ガイドラインとして公開し、社会普及や国民の健康維持・増進に貢献する活動を行っている。

＜書籍＞

・モノグラフ集(3 分冊)：「1.臨床脳波を基礎から学ぶ人のために」、「2.神経筋電気診断を基礎から学ぶ人のために」「3.脳機能計測法を基礎から学ぶ人のために」 ・「デジタル脳波の記録・判読の手引き」 ・「誘発電位ガイドライン」 ＜ガイドライン（学会誌に掲載）＞ ・「低出力経頭蓋集束超音波刺激に関する提言」 ・「低強度経頭蓋電気刺激の安全性に関するガイドライン」 ・「磁気刺激法の安全性に関するガイドライン」　など
d.学会運営上留意している点
当学会は学際的に幅広い分野の医療者が参加しているため、分野に偏らずに研究や技術の伝播を行うための講習会やセミナーを開催すること、新しい知見を獲得するための研究基盤の確立やネットワークの構築を行う目的の各種セミナーも行っている。さらに、次世代の若手研究者の発掘や育成を心掛けている。
Ⅱ.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい.
本学会はもともと分科会横断的学会であり、会員が関わる医学領域が幅広く、脳神経内科、精神神経科をはじめとして、脳神経外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、眼科などの多くの診療分野や、脳や神経を研究している医師や研究者で構成されている。さらに、本学会では、医師以外に機能検査に関わる検査技師やリハビリテーション療法士などの会員も多く、学会内で幅広い医療領域にわたる関連職種連携が行われ、その成果を各診療分野に還元している点が、当学会の独創的で他の分科会にない特徴であり、学術的に重要な点と考えられる。 ・診療報酬改定における共同申請など